



ひねり髪すき(アートフォルム)

鹿角市

波のような曲線の美しさと格調高い木の質感。平面で構成される一般的な「櫛」とは一線を画し、アートな雰囲気さえ漂わせるのが、グッドデザイン賞、おもてなしセレクション金賞をはじめさまざまな賞に輝くアートフォルムの主力商品「ひねり髪すき」だ。

「お客さまの『折れない櫛をつくってほしい』との言葉が商品開発の端緒です」と語るのは同社代表の橋野浩行さん(61)。1991年に同社を立ち上げ、しゃもじやバターナイフなど木の生活用品で客層を広げていた30年以上前のことだ。着想、発想に10年、さらに10年構想を重ね、2011年に商品化した。

斧が折れるほどの素材

「折れない櫛」のために選んだのが「オノオレカンバ」。厳しい寒さの東北に育つ広葉樹で、1年に直径が0.2ミリしか太くならず、年輪が詰まっている。斧が折れるほど堅いことから付いた名前が入手困難な樹種。「櫛の代表的な素材のツゲは南国の美しい木ですが長年の使用で強度が落ちるため、より堅く丈夫

曲線が生み出す 使い心地と美しさ



曲線が美しい④オノオレカンバ13・5号(33,000円)と
ブラジリアンローズウッド13・5号(198,000円)のひねり髪すき。価格は税込み

な、オノオレカンバに行き着いたので「す」

頭の形にそって

ひねりを加えたような独特の曲線は「頭は丸いのになぜ櫛は直線?」という疑問から生まれた。「髪は東洋医学で血余といわれる。頭の形にそって髪をとかしながら頭皮のマッサージができ、血流の促進につながり毛髪にいいと思い、この形に至りました」

数十年乾燥させたオノオレカンバは年を経るごとに強度が増し、加工しづらく変化していく。歯を刻んだ後、さらに5年乾燥させた素材は刃物では歯が立たない。グラインダーで削り出すモルディングという製造方法を採用した。当初から図

面は描かず、粗削り、仕上げとも粒度3種類、計6種類のやすりで削り成形していく。現在は、ベテラン職人と2人で製造しているが、形を決める粗削りはもっぱら橋野さんの役割。

手仕事だからなじむ

「自分自身の手の感覚で削るから持ちやすい曲線になるのです」。さらに磨きをかけ、椿油に2週間から1カ月浸した後、髪を傷めないように歯と歯の間の根元に薄く溝を掘る「根すり」を施し乾燥させて完成させる。全工程手作業だ。

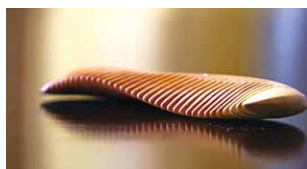
国内外で愛用者が増えている「ひねり髪すき」だが、オノオレカンバは希少種で、資源として限りが見えている。そこで挑んだのが木材を圧縮して堅くする独自の技術で、2つの特許を取得している。

伽羅の髪すき

この技術が新たな展開をもたらしている。ブラジリアンローズウッド、スネークウッドなどの希少素材を使い、よりプレミアムな商品開発が

できるように

なった。飛び切り高価なのが、ベトナム産の最高級香木・伽羅沈香を使った髪すきで、10・0号の製品が100万円(税込み)。



伽羅のひねり髪すき

「素材を圧縮し、香りを閉じ込める。手の中に包んだら体温で濃縮された芳香が立つ。ニューヨークの展示会では握ったまま離れたがらないお客さまもいました」

秋田から世界へ

今後は資源豊富な桜や杉の使用を視野に入れている。特に、秋田杉の突然変異種であるアオヤジロに注目している。良質な芳香を放つ貴重素材で近年植樹も行われている。「世界が驚くくらいいい香りの髪すきを秋田の素材と技術で開発したい」

常に前を見据えたモノづくりの根底にあるのは2010年に参加したニューヨーク桜祭りでの思いだ。商談相手から「ここに憧れてやってくる日本人はいるが、継続して行動



2005年に宮内庁御用達となった靴べら

アートフォルム

〒018-5421
鹿角市十和田大湯字扇ノ平49-3-2
TEL0186-37-3323
https://store.artform.jp



加工する橋野さん